

# ベトナムドレモンとスアンマイ

## 一人々に愛され続ける子供向けエンターテインメント

荒神 衣美

### ●多様化する子供向けエンターテインメント

ベトナムの子供たちは、経済発展にもなつて、多様なエンターテインメントを楽しめるようになった。エンターテインメントの種類には、遊園地など施設をとまなうものから、音楽鑑賞や読書など自宅で気軽に楽しめるものまでさまざまあるが、各々の質・内容が、ここ数年でずいぶんと多様化してきているように思う。

南部ホーチミン市における遊園地事情については、本誌七月号のフォトエッセイに少し書かせていただいた。これまで、ホーチミンの子供にとって代表的な行楽施設といえば、スイティエン、ダムセン公園、ダイナム・テーマパークなど、アトラクションで盛り込んで、郊外に位置する広大な施設内には奇抜で大掛かりなデコレー

ション、という特徴を備えた場所であった。一方、最近では、こうした伝統的ともいえるスタイルの遊園地に加えて、就業体験型テーマパークやデパートに併設するゲームセンターなど、街の中心部およびそこから比較的近い場所でもコンパクトに遊べるタイプのエンターテインメント施設も出てきている。

こうした後楽施設は、多くの子供たちにとっては、まだあくまで「おでかけ」の場であり、普通の週末にちよくちよく訪れることのできる場所ではない。勉強をがんばったご褒美に夏休みなどを利用して親に連れて行ってもらう、というような場所である。

日々の生活に組み込まれた子供向けエンターテインメントとしては、音楽を聴く、テレビを見る、(漫画)本を読むなどが一般的と考え

られる。これらは子供だけでなく大人にも広く普及しているエンターテインメントであり、ベトナムの街中を歩けば、木陰でバイクの上に寝そべって新聞雑誌を読む男性、道端で携帯電話にダウンロードした音楽を聞きながら声高らかに歌う若者、自宅やカフェで大音量のテレビを楽しむ人など、エンターテインメントに興じる人々の日常が窺える。

子供・若者向けの歌やアニメについては、インターネットの普及もあり、世界各国からさまざまな類のものが入ってきており、想像するに、流行廃りも激しくなっている。このところの人気は、やはり韓流で、街中で耳に入る歌謡曲のかなりの割合が韓国のものである。また、ゲームセンターなどに駆けば、ダンシングマシーンに陣取って人気韓国グループの流行

歌の振り付けをほぼ完璧に踊りこむ若者を見ることもできる。テレビの子供番組でも、朝の七時半頃、また夕方の六〜七時頃、つまり子供向けのゴールデンタイムに、韓国から輸入された番組をしばしば見かける。

そうしたなか、韓流の広まるずっと前に子供時代を経た大人から現役の子供にまで、広く愛され続けている子供向けエンターテインメントがある。それが「ドレモン」と「スアンマイ」である。

### ●ドレモン

「ドレモン」とは、いわずと知れた「ドラえもん」のことである。ベトナム風風という「ドレモン(Doremon)」となる。ドレモンがベトナムに入ってきたのは、一九九〇年代のことである。漫画本とテレビのアニメ放送を通じて、ドレモンは急速にベトナムの子供達の間で普及していった。ホーチミンのような都会はおろか、農村まで行っても、比較的裕福な家の子供ならドレモンの漫画本をシリーズで持っていたりする。ドレモンがベトナムに上陸した一九九〇年代に幼少期を過ごした現役二〇代の若者のなかには、ドレモン



本屋でドラえもんを読みふける子供たち (撮影: 木村友紀)

を原語で読むために日本語の勉強を始めたという学生も少なくない。

登場人物たちの名前は、ベトナム人が呼びやすいようにするためか、ドレモンをはじめ、本来のものから少しかえられている。しずかちゃんは「スーカー (Xuka)」、ジャイアンは「チャイエン (Chaien)」、スネ夫は「セコ (Xeko)」といった具合である。

インターネット上には、ベトナム語によるドレモン専門ページもあり、ベトナム語でドレモンの概要、のび太の身体情報から各友達との関係まで、さまざまな情報を得ることができる。また、YouTubeなどを使えば、ベトナム語版のアニメDVDがまだ普及していないようなプログラムを先取り

して楽しむこともできるようだ。

### ●スアンマイ

「スアンマイ」とは、一九九〇年代後半を中心に活動したホーチミン市出身のベトナム人子供歌手の名前である。一般には、「ペー・スアンマイ」(Be Xuan Mai: スアンマイちゃん)と呼ばれることが多い。一九九五年生まれのスアンマイは、二歳のときに歌手としての活動を開始し、六歳(二〇〇一年)になるまでに、『小さな驚く数々の童謡DVDを世に送り出した。小さいながら整った顔立ちで上手に踊り歌うその愛らしい姿は、子供達だけでなく保護者層にも受け、ベトナム全土で知らない人はいないという存在になった。

スアンマイは、父が歌手、母がギター奏者という音楽一家の出である。母方の家族がアメリカ国籍を持っていたこともあり、スアンマイは九歳のときに母親とともにアメリカに移住している。その後、二〇〇九年以降、スアンマイはベトナムに戻ってきて歌手活動をする機会も持っているようだが、一般的には、スアンマイはアメリカに行ってしまったと捉えられてお

り、彼女の姿は幼い頃のままで人々の記憶に留まっている。スアンマイ自身が一七歳になった今でも、彼女が幼少期に発表したDVDがいたるところで販売されており、小さな子のいる家には必ずといっていいほど「スアンマイ」がある。

### ●長く愛される理由

ドレモンはベトナムに上陸して以降、日本でのそれと同じように、多くの子供達を魅了し続けている。ドレモンが古今東西を問わない魅力を持っていることはここで改めて主張するまでもないだろう。ドレモンは、ただ夢を与えるだけではなく、人間味あふれるストーリーのなかに普遍的な価値観や教訓がうまく描き出されているがゆえ、ベトナムにおいても長く愛されているのだと考えられる。

スアンマイについても、同じことが言えると思う。スアンマイに歌われる童謡のいくつかについて、歌詞内容を見てみたい。スアンマイの代表曲『小さな驚 (Co Be Ba)』では、子供が母親を慕う気持ちと、母親の子供に対する強い愛情が表現されている。また、人気曲のひとつである『家族みんな

なお互いが好き (Ca nha thuong nhau)』では、父さんにも母さんにも似ている僕に対する両親の愛情、そして家族間の絆の強さがうたわれている。家族の絆を大切にしたい。これはベトナム人が、時代が変わっても守っていきたいと考えている価値観に他ならない。こうした価値観を無邪気に歌い上げるスアンマイが、人々に愛され続けることに何ら不思議はないだろう。

経済発展が進む一方で、次第に社会的なひずみも大きくなりつつあるベトナム。農村部にはまだまだ素朴さも残っているとはいえ、都会では子供達がインターネット等を通じていくらかでも危うい情報にアクセスできるといふ状況が徐々に深刻度を増しており、日本の親同様、ベトナムの親もどこまでそうした状況から子供を守ることができるか、頭を悩ませている。そうした社会変化のなかで、ドレモンとスアンマイは、エンターテインメントという形を通じて、子供達に普遍的な価値観を伝え続ける役割を担っているのかもしれない。

(こうじん えみ/アジア経済研究所 東南アジアII研究グループ)